

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 10じん芥処理費

◎減量化・資源化の経費

減量化資源化運営事業 【 資源循環課 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち  
生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 3R事業を推進し、循環型社会の形成を目指すため。

効果 市民、事業者、行政が協働して、3R事業の施策を展開することにより、循環型社会が形成される。

【事業の内容】

(1) 減量化資源化運営事業

- ・ 3R推進事業奨励金交付事業として、ごみの発生抑制及び減量化、資源化事業に協力する自治町内会に対して奨励金を交付した。
- ・ 一般家庭向けの啓発事業として、環境ニュースの発行、出前説明会の開催、環境教育、ごみダイエット展、キャンペーン等を実施した。
- ・ 事業所向けの啓発事業として、研修会の開催、パンフレットの配布及び訪問指導等を行った。
- ・ 大型生ごみ処理機を小学校、市役所、市営住宅に設置し、生ごみの減量化、資源化に努めた。
- ・ 生ごみ処理機購入費補助金を交付し、各家庭における生ごみの自己処理を促すことにより、生ごみの減量化、資源化を図った。

【中事業に含まれる実施計画事業】

- ごみの発生抑制の啓発(3-3-1-①)
- 生ごみの排出抑制(3-3-1-②)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
28,200	26,375	23,858		2,517

主な支出内訳

・ 減量化資源化運営事業

事業系ごみの発生抑制啓発事業講師謝礼	30
3R推進事業奨励金	4,417
啓発用消耗品費	823
環境ニュース印刷製本費	794
資源物50音別分別区分冊子印刷製本費	941
減量化・資源化啓発委託料	2,183
大型生ごみ処理機保守管理委託料	2,142
50音別分別区分全戸配布委託料	622
大型生ごみ処理機賃借料	1,184
生ごみ処理機購入費補助金	9,631

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-06 減量化資源化運営事業 □支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1104 生ごみ処理機購入費助成事業							
		1173 小学校等生ごみ処理機設置事業							
		1173 3R推進事業奨励金交付事業							
主管課	資源循環課	関連課							
分野名	生活環境								
目標 (目標値)	市民、事業者、行政が一体となって、ごみの発生源や排出源での減量化、資源化を推進して、循環型社会の形成を目指す。生ごみ処理機の世帯普及率を現状の21%を維持する。								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
運営資源 状 況	決算値	23,858千円	27,503千円	27,363千円					
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	23,858千円	27,503千円	27,363千円					
	人員配置数	4.3人	4.8人	4.4人					
	人件費	40,365千円	46,320千円	42,344千円					
事務事業 運営経費	協働の パートナー								
	総事業費	64,223千円	73,823千円	69,707千円					
	市民1人当 りの経費	364円	420円	398円					
	対象者1人 当りの経費								
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
ごみ焼却量	◎	目標値	41,590t	40,960t	40,340t	39,700t	30,900t		
		実績値	41,533t	39,007t					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
生ごみ処理機普及率	◎	目標値	21.0%	21.0%	21.0%	21.0%	21.0%		
		実績値	21.4%	21.5%					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
3R推進事業奨励金交付 制度団体登録率	○	目標値	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%		
		実績値	81.4%	83.1%					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度( 年度)		
		目標値							
		実績値							
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している									
ベンチマーク(平成19年度県内自治体や民間団体との比較値)									
団体名	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市
生ごみ処理機普及率	1.9%	1.1%	5.5%	14.7%	21.5%	13.8%	12.3%	7.6%	23.6%
資源化率	27.3%	15.5%	35.3%	20.4%	47.6%	31.0%	31.8%	18.5%	25.4%
相模原市	三浦市	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	南足柄市	綾瀬市
5.3%	4.0%	12.5%	11.9%	9.3%	13.9%	8.3%	3.7%	18.6%	3.5%
19.9%	33.7%	22.2%	14.6%	23.9%	15.6%	37.9%	32.1%	25.4%	27.8%

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 事業系ごみに資源物が混入されているものが多く見受けられるため、事業者に対する分別指導が課題である。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・一般廃棄物収集運搬許可業者が名越クリーンセンターに搬入する事業系のごみの内容について、クリーンセンターのピット投入口での調査を行い、事業系ごみの分別指導を行った。 ・事業系ごみの焼却量が経済不況の影響もあるが前年より2,527トン(前年比6%)減少した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 名越クリーンセンターでのピット前調査及び事業所訪問による分別指導を行ったが、まだ分別が徹底されていない事業所があり、指導強化が必要である。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 廃棄物を多量に発生させる事業所については、毎年、訪問して発生抑制、減量化及び資源化の指導をしているところですが、それ以外の事業所についても啓発を行い、多くの事業所の協力を求めていく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	ごみの焼却量を減少させるために、町内会・自治会等を中心とした3R推進の啓発活動を推進するとともに、事業者に対する分別指導を強化していく。		
担当課長氏名:	資源循環課長 相澤 達彦		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けて、市民、事業者に対する3R推進の啓発を充実させていきます。		
担当部名	環境部	部長名	勝山 洋